

第三次富士河口湖観光立町推進基本計画

第1回観光みらいWG

■日程

2026 年 7月15日(水) 14:00～16:00

■場所

富士河口湖町役場 コンベンションホール

■議事

1. あいさつ
2. 観光みらいWG開催の趣旨
3. インプット：「富士河口湖町をとりまく現状」とは
4. ワーク「VICEの4視点で富士河口湖町の観光課題を整理」
 - 【全体説明】 ワークの進め方説明（10分）
 - 【アイスブレイク】 自己紹介等（10分）
 - 【ワーク】 グループワーク（55分）
 - 【全体共有】 各チーム代表者による「全体共有」（15分）
5. まとめ

■参加者

A班	大石観光協会
	勝山観光協会
	河口湖温泉旅館協同組合
	河口湖温泉旅館協同組合青年部
	河口湖温泉旅館協同組合青年部
	富士河口湖町役場
	JTBF
B班	小立観光協会
	河口湖温泉旅館協同組合青年部
	河口湖温泉旅館協同組合青年部
	（一社）富士河口湖町観光連盟
	富士河口湖町役場
欠席	JTBF
	北河口湖観光協会
	西湖観光協会

インプット：「富士河口湖計画をとりまく現状」とは

■使用資料（一部）

【サマリー】富士河口湖町をとりまく現状

内部環境の変化

【富士河口湖町を訪れる来訪客の特徴】

- ✓ 2011年以降富士河口湖町を訪れる観光客数は増加傾向。コロナ禍後は特に訪日外国人の旅行者数が急回復・成長している。一方で、日本人の宿泊者数は伸び悩んでいる。
- ✓ 日本人のうち約6割が首都圏からの来訪者。また、8割以上がリピーターで、前回来訪時期も3割が1年未満と、「ヘビーリピーター」に支えられている。
- ✓ 来訪者の6割以上が「富士山を見ること」を来訪目的に上げているほか、「自然・風景鑑賞」や「温泉」なども上位に入ることから、自然環境が主な観光資源となっている。
- ✓ 急増した観光客が河口湖駅前等の一部のエリアに過度に集中することで、オーバーツーリズムが発生している。一方で、河口湖以外の西側のエリアへの周遊や分散は進んでいない。

【行政や観光産業の現状】

- ✓ 「宿泊業・飲食サービス業」は町内で製造業に次ぐ主要産業であり、特に女性の雇用の基盤となっている。
- ✓ 少子高齢化と人口減少が深刻化しており、生産年齢人口が2010年以降減少傾向であり、それに伴って地方税収も減少が見込まれる一方、社会保障関係費は増加している。
- ✓ 令和9年度からの宿泊税の導入により、観光関連施策に対して独自財源の確保と活用が期待される。

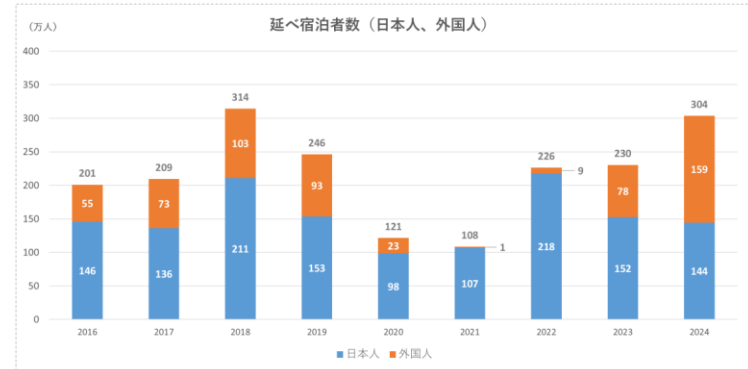
外部環境の変化

- ✓ 日本を訪れる訪日外国人旅行者は年々増加傾向にある他、近年の円安の影響から消費額も増加傾向にある。
- ✓ 世界的には富裕層および高付加価値旅行を好む旅行者が増加しており、自身の体験の満足度向上や地域貢献への関心が高まっている。
- ✓ 観光庁予算や年々増加しており、地方における消費拡大やオーバーツーリズム対策、観光産業の人手不足等の諸課題に関して、国の重点政策が講じられるなど、追い風となっている。

13

富士河口湖町における宿泊者数の推移

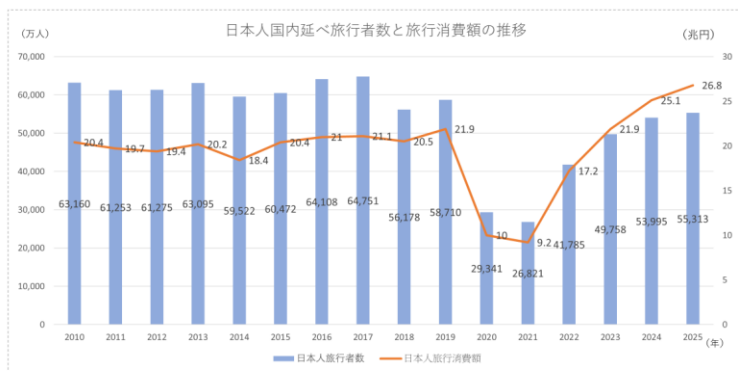
- 2018年には年間約300万人であった宿泊者数は、コロナ禍の2021年には3分の1（約100万人）まで落ち込んだ。その後はインバウンドを中心に回復を見せ、2024年には全体で約300万人とコロナ禍前と水準まで回復した。
- インバウンドは順調な回復を見せたが、日本人宿泊者数の回復は依然として課題である。



17

国内旅行者数と消費額の推移

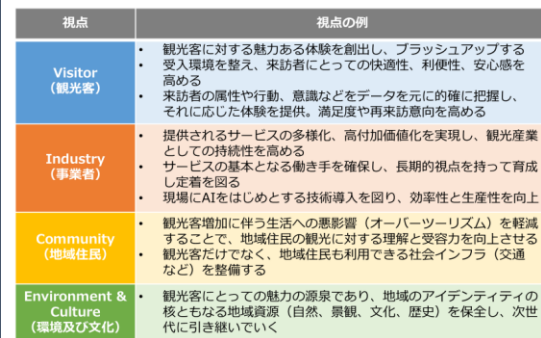
- 日本人国内延べ旅行者数は近年は横ばいから減少傾向。コロナ禍を経て2022年以降は回復傾向にはあるが、コロナ禍前の水準には至っていない。
- 一方、日本人国内旅行消費額はコロナ禍前の水準を超え、2025年には26.8兆円まで成長している。



23

観光振興の視点：VICEモデル

- 観光のマネジメント理論のVICEモデルでは、**Visitor(来訪者)**、**Industry(産業)**、**Community(地域社会)**、**Environment(環境)**の4つの要素・関係者間のニーズを満たしながら、それぞれの相互作用を適切なバランスで保つことが重要とされている。



出典：A Practical Guide to Tourism Destination Management (UNWTO, 2007)

31

ワーク「VICEの4視点で富士河口湖町の観光課題を整理」

■実施の様子



■使用資料（一部）

本日のワーク内容



概要説明

ワークの進め方説明（10分）

アイスブレイク

自己紹介等（10分）

ワーク

グループワーク（55分）

全体共有

各チーム代表者による「全体共有」（15分）

33

ワークの進め方・考え方



ワークの進め方

0～10分：各自でふせんに書き出す（V・I・C・Eそれぞれ）

10～50分：グループワーク。各自で考えた内容をもとに、模造紙にふせんを貼りながら議論

50～55分：発表準備に向けたグループ内でのまとめ。発表者1名程度決定（事務局以外の方）

- ✓ 模造紙は「V」「I」「C」「E」それぞれ用意しています。必ずしも、すべての模造紙を埋める必要はありませんので、意見の多かったカテゴリから討論し、模造紙を埋めていくことをお勧めします
 - グループワークの最初に、各自の意見出しでどのカテゴリが多かったかを最初に確認したうえで進めましょう

ワークの考え方

- ・ 必ずしも「目標」⇒「現状」⇒「課題」の順番で考えなくとも、考えやすい順番で記載いただいても問題ありません。（例：「町内の各エリアの周遊促進」という課題から考えることも可）
- ・ 「目標：みんなが幸せになる観光地」といった広いトピックではなく、皆様が普段から感じられている事柄や課題感等をふまえた、個別・具体のトピックで極力ご検討ください。
- ・ 自分たちでできることや行政と連携して実施するものなど、内容は幅広く検討ください。

ワークのルール

- ✓ ワーク内容に正解はありません。他者の意見は否定せず、各自の考えに耳を傾けましょう
- ✓ ワークの時間が限られているため、自身の説明は極力簡潔にお願いします
- ✓ ふせんへは、「キーワード」を記載（文章にしない）。また、太字で大きな字を書くようにし、書ききれなかったことは口頭で補足ください

37

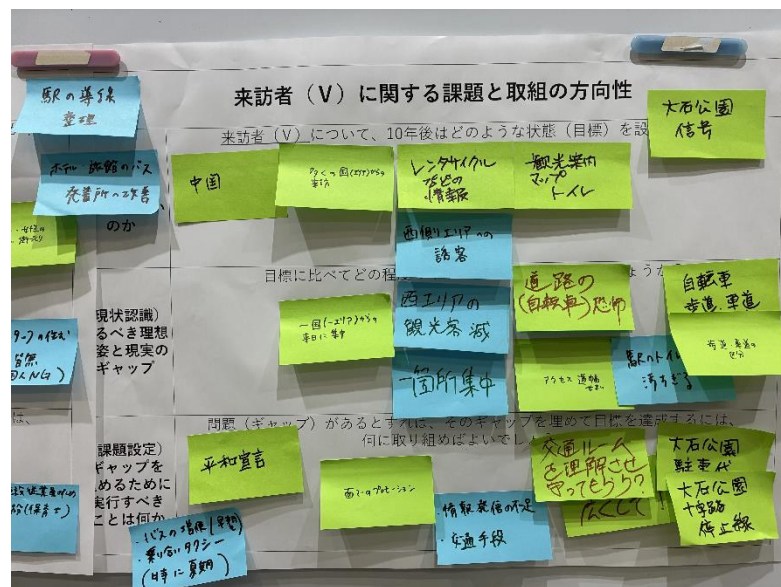
【全体共有】各チーム代表者による「全体共有」

■実施の様子

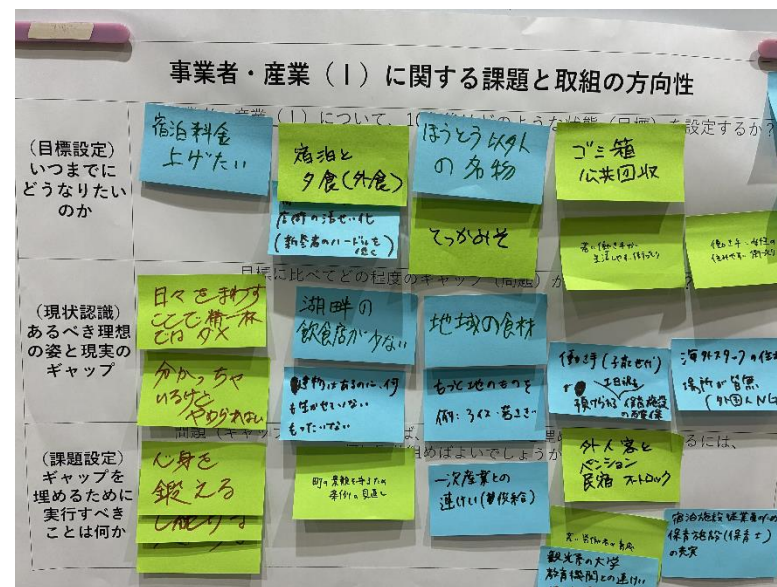


グループワーク結果 ■ A班

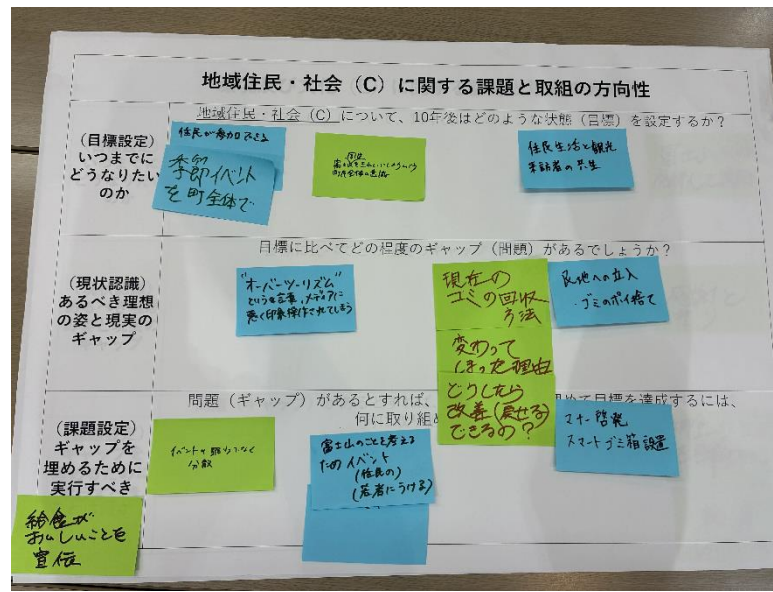
来訪者（Ⅴ）に関する課題と取組の方向性



事業者・産業（I）に関する課題と取組の方向性



地域住民・社会（C）に関する課題と取組の方向性



備考

- 地域住民・社会（C）に関する課題と取組の方向性については、全体共有は行わなかったが、グループ内で議論された。

グループワークでの議論 ■A班

来訪者 (V)

- 富士山を見るという目的に観光客が集中している現状に対し、**エリアを分散させ、複数エリアを巡って楽しめる**観光地を目指すべき
- 観光客の交通ルール遵守（特に自転車の走行マナー）が課題であり、**安全対策やルールの周知徹底**が必要
- 駅周辺で観光客の動線が整理されておらず、バスやタクシーの利用、宿泊施設への移動がスムーズに行えていないため、**動線の整理と情報提供**が求められる
- 外国人の公共トイレの利用に関するマナー啓発をしているが効果が薄い（衛生面で課題が残る）
- 観光客のゴミ問題に対し、**ゴミ箱の設置や回収体制の見直し**をすべき
- **大石公園周辺の道路環境を整備**し、新たな観光拠点として活用すべき
- 中国からの観光客に対し、**平和宣言のようなメッセージ**を発信することで、良好な関係性を構築するきっかけを作るべき 一方外国人観光客の国籍は一部の国に偏らず分散すべき

事業者・産業 (I)

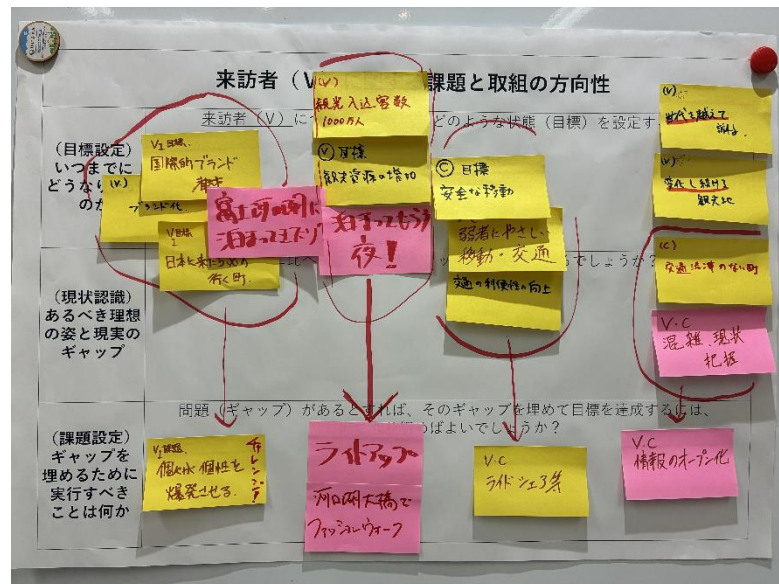
- 宿泊施設において、夕食の提供が不足しているため、**夕食情報の提供や飲食店との連携**が課題
- 飲食店や観光サービスへの新規参入のハードルが高いため、**若い世代が参入しやすい環境づくり**が必要
- 観光業を「**稼げる産業**」として再定義し、若い世代が働きたいと思える環境を整える必要がある
- **郷土料理**（茄子の味噌焼きなど）の提供を強化すべき
- **一次産業と連携**し、食材の域内調達率を高めるべき
- **質の高い学校給食を地域ブランド**としてホームページ等でPRし、移住者や観光客へのアピール材料とすべき
- 観光業における**人手不足が深刻**であり、特に外国人スタッフの住宅問題が課題
- 観光学や関連サービスを学ぶ、**近隣の大学や専門学校等と連携**し人材を確保すべき
- 宿泊施設において、外国人観光客のニーズに合わせた対応や、日本人観光客を増やすための差別化戦略が求められる

地域社会 (C)

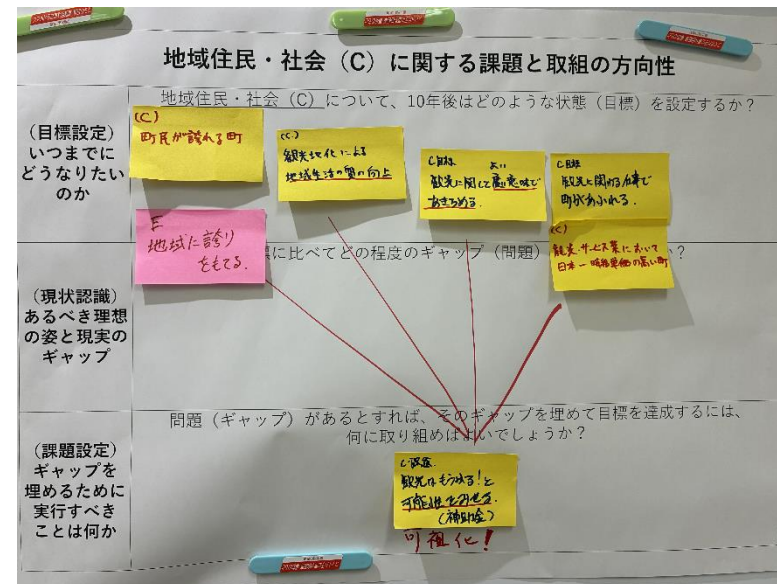
- **富士山に対する住民（特に大人たち）の知識・教養不足**が生じているため、観光客と住民が参加できるイベント等を通じて富士山への理解を促進すべき
- **宿泊・飲食サービス従業員向けの保育施設**を充実させるべき（土日保育の充実や立地の改善等）
- 観光地化が進む中で、住民の生活環境（民地への立ち入りやゴミ問題）が圧迫されている現状があり、**観光と住民生活のバランスを考慮した計画**が必要
- **観光教育を通じて、次世代を担う子供たちに地域の価値や観光の重要性**を伝え、将来的に観光に関わる人材育成が必要
- 観光客の受入において、行政だけでなく、観光協会や民間事業者、住民が連携し、地域全体で観光を支える体制を構築すべき
- 町の景観を守るための条例が必要

グループワーク結果 ■ B班

来訪者（V）に関する課題と取組の方向性



地域住民・社会（C）に関する課題と取組の方向性



代表者による「全体共有」

- 来訪者（V）に関する課題と取組の方向性において、国際的なブランド都市としての地位確立と、入り込み客数1,000万人の達成を目標に掲げている。
- 河口湖に泊まったことがステータスとなるようなブランド戦略の推進が提案された。
- ナイトタイムエコノミーの推進として、ライトアップや河口湖大橋でのファッションショーなど、滞在を促すコンテンツの創出が挙げられた。
- 観光弱者にも配慮した安全な移動手段の確保として、ライドシェアの活用や、交通情報のオープン化による混雑回避のための環境整備の必要性が提案された。
- 大石公園周辺の交通渋滞など、観光地特有のアクセス課題を解消し、観光が収益を生む可能性を10年後を見据える意見が示された。
- 地域住民・社会（C）に関する課題と取組の方向性において、町民が誇りを持てる町づくりと、観光を通じた地域生活の質の向上が目標設定として挙げた。
- 地域住民に対し、観光で町を運営していくという方向性の理解・受容が求められた。
- 観光に従事する人々の賃金を日本一高い水準に引き上げ、魅力ある環境を構築する意見が示された。
- 事業者の意欲向上に向け、金融機関の借入れ優遇や公募活用など、新たなチャレンジを後押しする支援体制の整備の必要性が提案された。
- 観光成長の恩恵を可視化し、住民にとって住みやすい町へと変化している実感を醸成する重要性が確認された。

グループワークでの議論 ■B班

来訪者 (V)

- 国際的なブランド都市としての確立を目指し、各事業者がニッチでエッジの効いた個性的なサービスに挑戦する環境を作る。
そのためには個々の事業者がアイデアを出しやすい環境づくりや補助金といった支援が考えられる
- 宿泊者数を増やすため、夜間の観光コンテンツ（ライトアップや湖面へのプロジェクションマッピングなど）を充実させる
- 富士河口湖大橋を封鎖してファッションウィークを開催するなどの大胆なイベント企画を検討する
- 観光客の移動手段として、レンタカーやハイヤーに頼らない移動弱者（高齢者や子連れ）に優しい交通手段を整備する
- 渋滞緩和のため、郊外に駐車場を設置し、そこからシャトルバス等で観光地へ移動する「パークアンドライド」方式を導入する
- 観光地や富士山の見え方に関する情報をIT活用でオープン化し、混雑状況やリアルタイムの情報を共有する

地域社会 (C)

- 住民が自分の町に誇りを持てるよう、観光が地域にもたらす恩恵を再認識し、可視化する
- 観光業を地域の基幹産業として位置づけ、観光に関わる仕事の待遇を日本一高い水準に引き上げることで、住民の参入を促す
- 観光客の増加による渋滞やクレームに対し、観光地であることを受け入れ、観光業への参入を前向きに捉えるマインドセットへの転換を図る
- 観光宿泊税の税収を、観光業に従事する子育て世代のための保育園整備や支援に充てる
- 地域の給食の質の高さや無料化といった子育て支援策を、移住者誘致や働き手の確保につなげる
- 観光客に対する「インバウンドありがとう券」のような、観光還元商品券の発行を通じて、住民が観光の恩恵を直接実感できる仕組みを作る

■使用資料

宿題予告



1. 「気づき」の言語化

今回のワークショップで他チームの発表やインプットパートを通して得た、
最も大きな気づきを教えてください。

2. 「課題」から考える、自分なりの「施策（打ち手）のアイデア」

自グループの議論や他グループの発表から、特に自身が着目した「課題」に対する打ち手として考えられるものをご記載ください。（アイデアベースで構いません）。できれば複数個考えていただき、そのうち、「自分たち（自分＋他参加者や地域内事業者・行政・団体）と連携することで実施可能なこと」について、1つ以上記載ください。

※提出フォーマットを用意し、WG後、1か月以内を目途に提出いただくことを予定しています